

14日間の選挙戦幕開け

10・26

**川崎
市長選**

任期満了に伴う川崎市長選が12日告示され、26日の投票に向か、14日間にわたる選挙戦が始まった。過去最多となる6人の候補は街頭などで第一声を上げた。福田市政3期12年の評価をはじめ、人口減少時代でもいまだに成長を続ける155万人都市の未来を見据え、活発な論戦を市民は求めている。

(川崎市長選取材班) 〔本記1面に現職の福田紀彦氏(53)は〕

R・武藏溝ノ口駅近くでマイクを握った。ちょうど6年前の10月12日は東日本台風が市内にも甚大な被害をもたらし、「この日を」忘れたことが「(この日を)忘れたことが安心を守るか」ということに注力してきた」と語り、今後も継続する姿勢を示した。

「循環」をテーマにした七つの柱を含む約30の政策を新規として掲げ、街宣車を使用しない選挙戦を宣言。「共感の輪を広げていきたい。素晴らしい川崎市を皆さんと一緒につくりていきたい」と約250人の聴衆に語りかけた。

求められる活発な論戦



川崎市長選に出馬した候補の演説に耳を傾ける市民ら
=12日、川崎市内(画像の一部を修整しています)

野末明美氏(60)は市内屈指の繁華街・銀柳街(同市川崎区)で選挙戦をスタート。医療従事者として命と健康を守り続けてきた経験も踏まえ、物価高対策を念頭に「豊かな財源を大規模開発に湯水のように使い続けるのではなく、私たちの市民生活のために使う。市民の皆さんとともに変えていきたい」と強調した。

福田市政にも批判姿勢を崩さない。「福祉トップクラスの川崎市に生まれ変わることができる。市民生活最優先に必ず変えていく。未来を貢ぐとともに切り開いていく」と約束する「力」を込めた。

川崎市議を任期途中で辞職し、市長選に挑んだ山田穂理氏(42)は川崎駅東口駅前広場で、紫色姿で統一した支援者約20人と支持を求めた。前し、幅広い世代に思いを届けた。「いま25歳。経験不足はあることを打ち明け、「他の候補に比べて否めない。多回参院選では国民が『今、どうにかしてほしい』という思いでいることを実感した。市长として市民の声を反映できる市政にしたい」と力説した。

「保育料が高い」「南武線の混雑で大変」。市民の声に

耳を傾けるとともに交流サイト(SNS)を積極的に活用して、幅広い世代に思いを届けた。その経験を生かし「投票日に奇跡を起こすように」と熱弁を振るう。「いつかしてほしい」という思いでいることを実感した。市民の声を反映できる市政にしたい」と力説した。

故郷の新百合ヶ丘駅北口から第一歩を踏み出した國谷涼太氏(25)は「安全安心の街」

野末氏(60)は市内屈指の繁華街・銀柳街(同市川崎区)で選挙戦をスタート。医療従事者として命と健康を守り続けてきた経験も踏まえ、物価高対策を念頭に「豊かな財源を大規模開発に湯水のように使い続けるのではなく、私たちの市民生活のために使う。市民の皆さんとともに変えていきたい」と強調した。

福田市政にも批判姿勢を崩さない。「福祉トップクラスの川崎市に生まれ変わることができる。市民生活最優先に必ず変えていく。未来を貢ぐとともに切り開いていく」と約束する「力」を込めた。

川崎市議を任期途中で辞職し、市長選に挑んだ山田穂理氏(42)は川崎駅東口駅前広場で、紫色姿で統一した支援者約20人と支持を求めた。前し、幅広い世代に思いを届けた。「いま25歳。経験不足はあることを打ち明け、「他の候補に比べて否めない。多回参院選では国民が『今、どうにかしてほしい』といふ思いでいることを実感した。市民の声を反映できる市政にしたい」と力説した。

「保育料が高い」「南武線の混雑で大変」。市民の声に

耳を傾けるとともに交流サイト(SNS)を積極的に活用して、幅広い世代に思いを届けた。その経験を生かし「投票日に奇跡を起こすように」と熱弁を振るう。「いつかしてほしい」という思いでいることを実感した。市民の声を反映できる市政にしたい」と力説した。

故郷の新百合ヶ丘駅北口から第一歩を踏み出した國谷涼太氏(25)は「安全安心の街」

「差別者と知らせる」

差別禁止法

を求めて
時代の正体

選挙へイトに市民ら抗議

差別禁止法

を求めて
時代の正体

「差別者と知らせる」

差別禁止法

を求めて
時代の正体

川崎市長選が告示された12日、立候補したレイシストの宮部龍彦氏(46)は街頭演説で、在日「リアンへの差別を煽るデマを並べ立てた。有志の市民が投票しないよう落選運動に取り組み、道行く人々に「演説しているのは差別主義者です」「差別には1票たりとも入れてはいけません」と注意を喚起した。とりわけ選挙では許されない差別扇動を行つて外れな卑劣さに対する呼びかけた。

宮部氏は被差別部落出身者で、ヘイトスピーチ罰則条例を支持する川崎市川崎区の宮部龍彦氏(46)は街頭演説で、在日「リアンへの差別を煽るデマを並べ立てた。有志の市民が投票しないよう落選運動に取り組み、道行く人々に「演説しているのは差別主義者です」「差別には1票たりとも入れてはいけません」と注意を喚起した。とりわけ選挙では許されない差別扇動を行つて外れな卑劣さに対する呼びかけた。

市民は演説する宮部氏の周囲で「ヘイトスピーチ監視中」被差別部落の地名

氏(42)は川崎駅東口駅前広場で、紫色姿で統一した支援者約20人と支持を求めた。前し、幅広い世代に思いを届けた。「いま25歳。経験不足はあることを打ち明け、「他の候補に比べて否めない。多回参院選では国民が『今、どうにかしてほしい』といふ思いでいることを実感した。市民の声を反映できる市政にしたい」と力説した。

故郷の新百合ヶ丘駅北口から第一歩を踏み出した國谷涼太氏(25)は「安全安心の街」



宮部氏(奥中央)がヘイトスピーチをしていることに抗議するプラカード
=12日、川崎市川崎区

氏(42)は川崎駅東口駅前広場で、紫色姿で統一した支援者約20人と支持を求めた。前し、幅広い世代に思いを届けた。「いま25歳。経験不足はあることを打ち明け、「他の候補に比べて否めない。多回参院選では国民が『今、どうにかしてほしい』といふ思いでいることを実感した。市民の声を反映できる市政にしたい」と力説した。

故郷の新百合ヶ丘駅北口から第一歩を踏み出した國谷涼太氏(25)は「安全安心の街」

耳を傾けるとともに交流サイト(SNS)を積極的に活用して、幅広い世代に思いを届けた。その経験を生かし「投票日に奇跡を起こすように」と熱弁を振るう。「いつかしてほしい」という思いでいることを実感した。市民の声を反映できる市政にしたい」と力説した。

故郷の新百合ヶ丘駅北口から第一歩を踏み出した國谷涼太氏(25)は「安全安心の街」